

特別
4816
2

持

門 九
4816
巻 2



蝦夷みやけ

原名蝦夷奇觀下

臘脚臍之部

蝦夷島ヲシヤマンベの海ニ臘脚臍を出せり冬十月
 より春三四月頃まで夷命一捕へし此漁事を
 よくするものをテバ蝦夷と云ふ其頃に至りて物忌
 種々ありて舟を清め木幣を製し酒を捧けて海神舟
 神を祭る臘脚方名ウ子ヲと稱す雌をホーマツプと
 云へり大三四尺餘一種ヲ子ツプと云ふあり大五
 尺計り或ハ六七尺及ふ者あり二種と云ふあり
 て上も支齒より下ハ特齒あり常に波に浮ぶ西
 地ヲコシリ出る者ハ尾鰭少異る者あり空に

たやのに波静かなるは日をうかひて漁獵し出づ其
 あとよては物音を禁じ家より居る婦女等食事さへい
 そろにせさまぢ彼のウ子ヲを驚かして眼をさぼす
 とみ捕獲して歸れば窓より入る其外漁具の出入
 れも窓よりせざれを護がしと云ふらハせり

ウ子ヲ水上に游泳
 する状圖の如し夷
 等此状を見て睡
 眠と為す

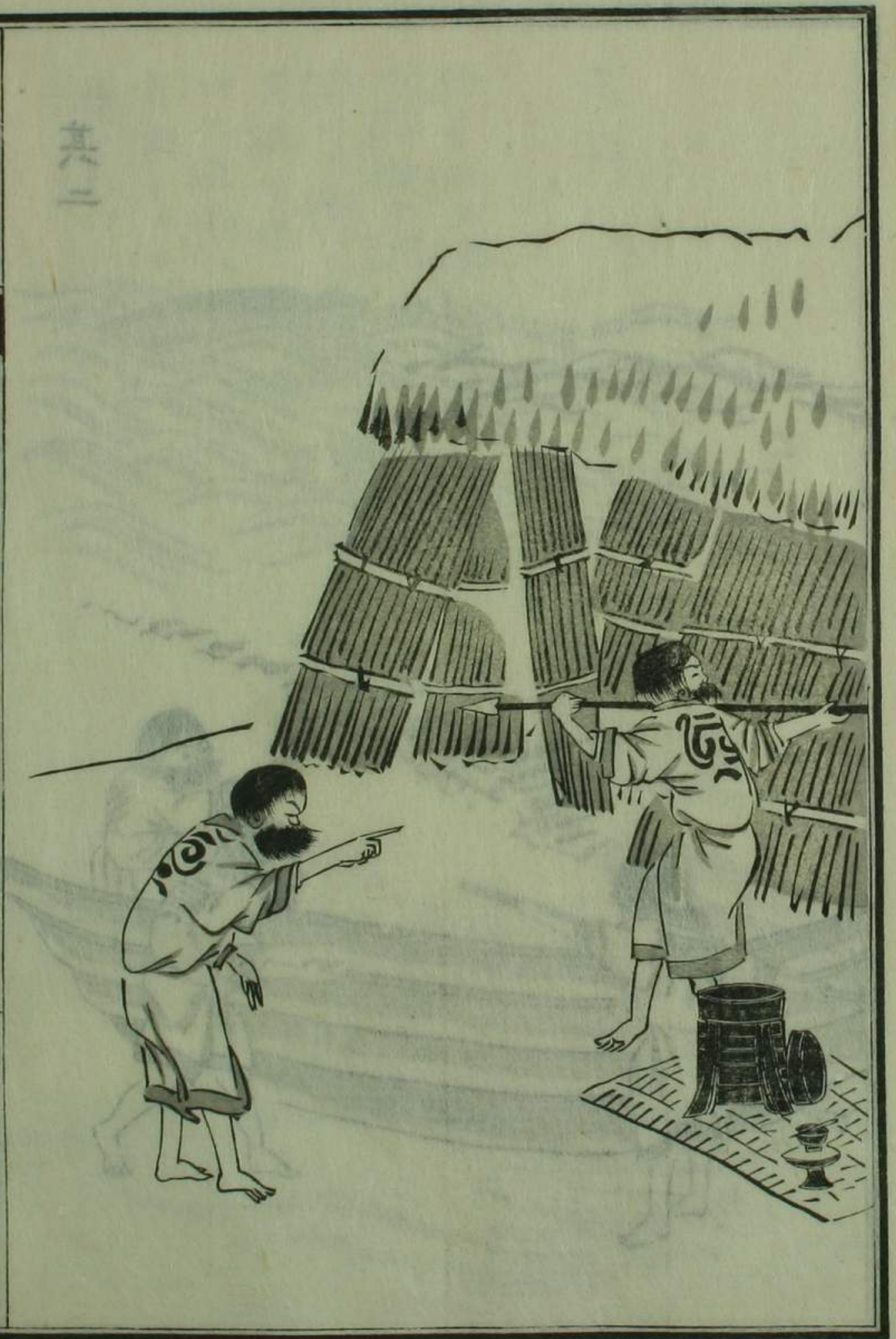


海龍の形

温胎獸を捕る一

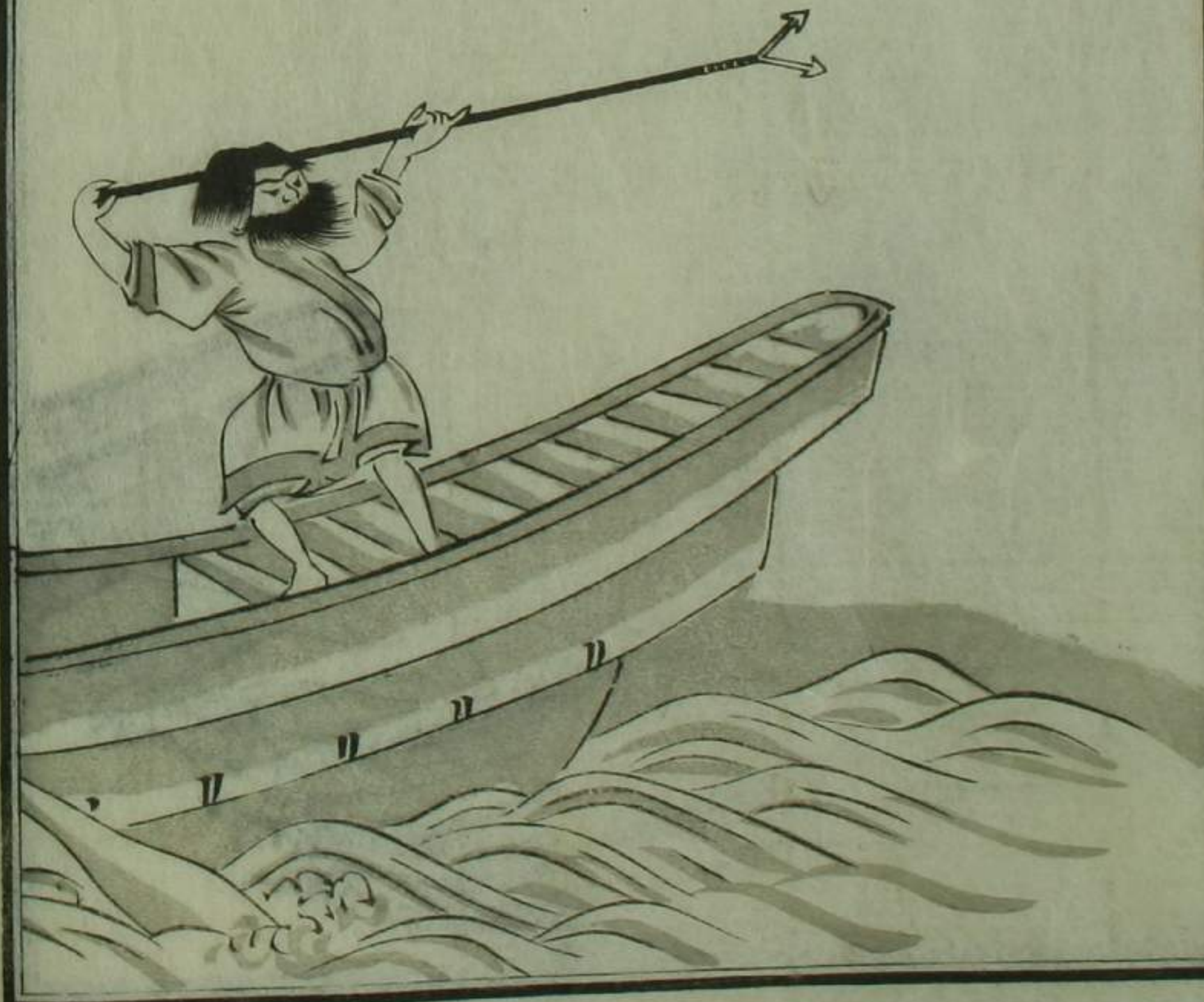


其二

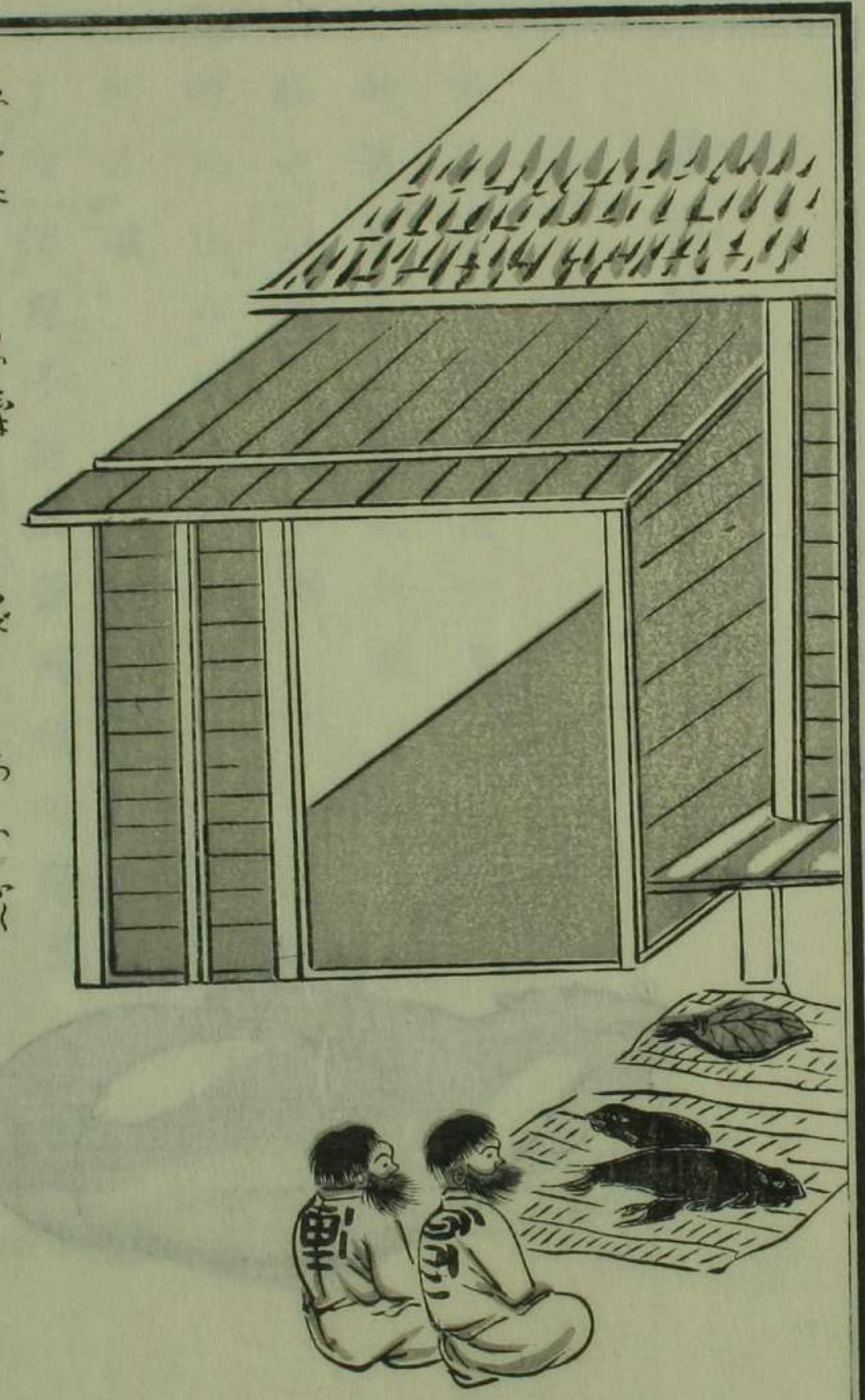


獸の波に浮ふ時ハ
 其傍に必だ鳧の
 如き鳥群れり夷人
 其鳥を見て舟を
 徐かに漕よせ其間
 十間計り隔て魚
 掬を以て擲ち捕る

其三



獲來りて會所へさし出せば米衣服
煙草等致あそふるあり



段長ナカ

六

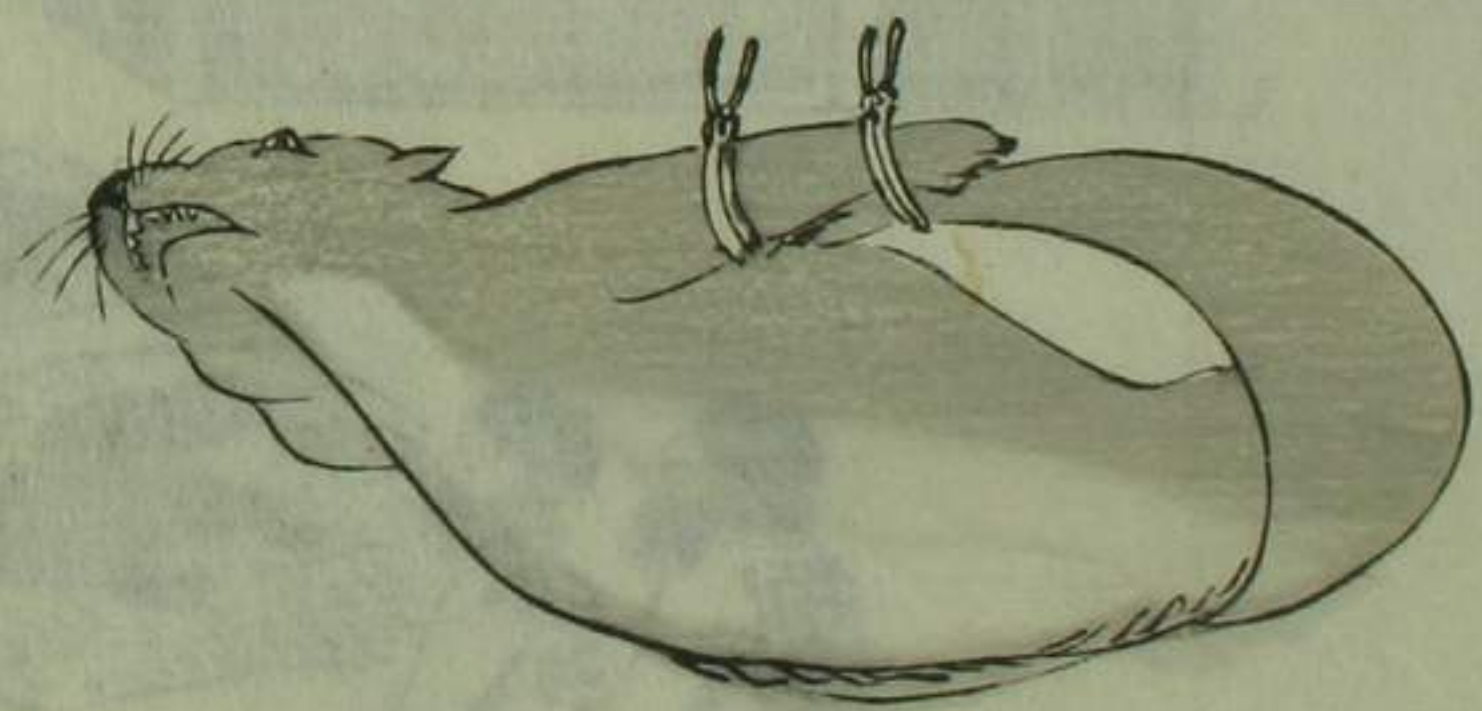
陣文合藏

堀夷みやけ 卷下



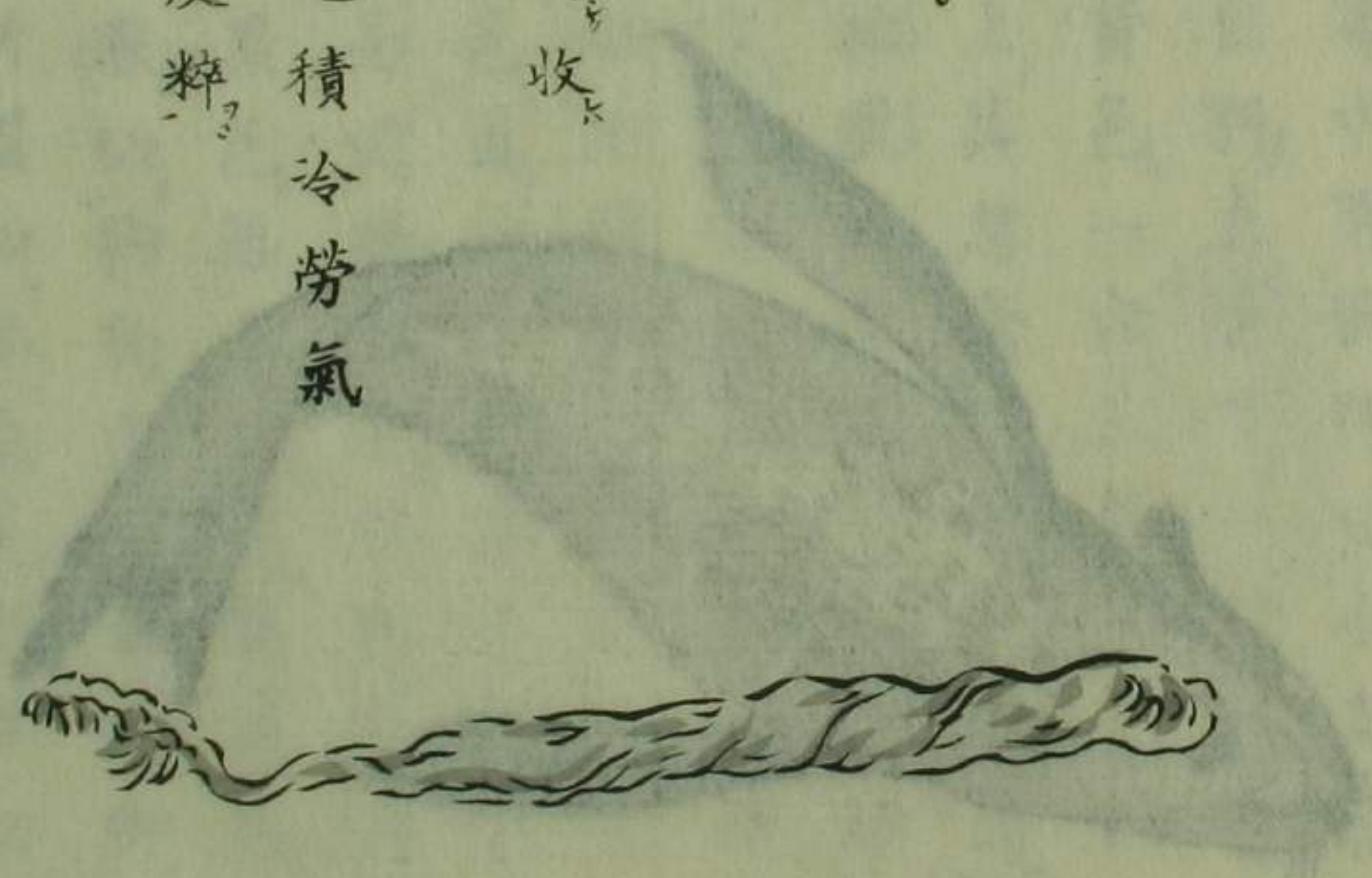
魁文集藏

鹽漬えんじけとるとたるた圖ず



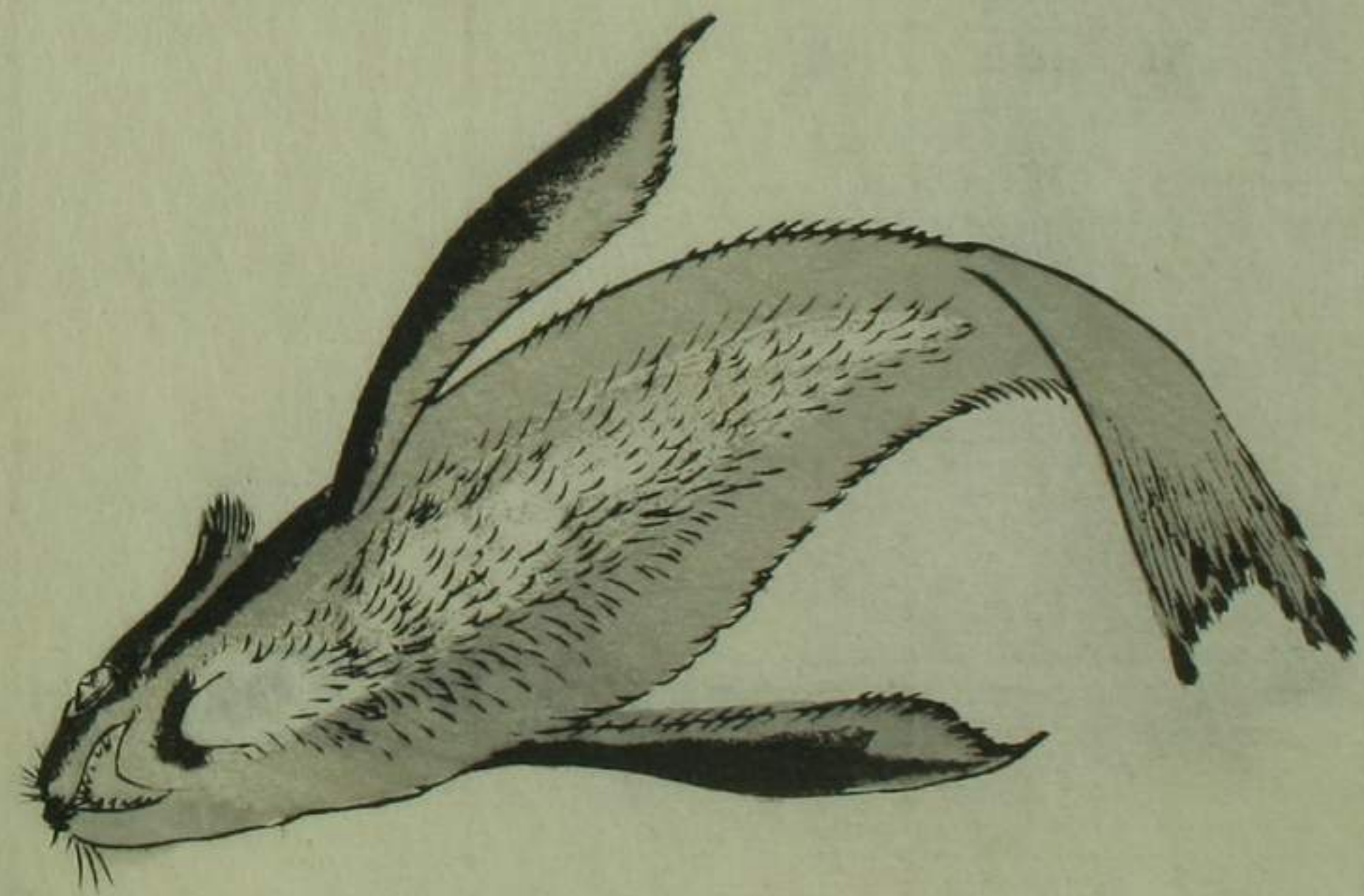
海狗腎かいこうじん 鹹大熱無毒

本草。修治。用酒浸一日。
紙裹炙香剉搗或於銀
器中。以酒煎熟合藥。
時珍曰。以漢椒樟腦同收
則不壞。
主治。治男子宿癥氣塊積冷勞氣
腎精衰損多色成勞瘦粹。



段長... 七... 魁芳集藤

フ、子ツフ
西地ヲコシリ 多く
此獸を産す



本草。膾。膾。多偽者。海中有獸。號曰水鳥龍。海人取其
腎以充膾。膾。其物自別。真者有一對。則兩重。薄皮。覆
丸核。其皮上自有肉黃色。一穴三莖。收之。器中。年々温
潤。如新。或置睡夫頭上。其忽驚跳若狂者。為真也。
時珍曰。按唐書云。骨。獸出遼西營州及結骨國。一統
志云。膾。膾。出女直及三佛齊國。獸似狐。脚高如犬。走
如飛。取其腎。漬油。名膾。膾。觀之。則似狐之說。非無也。
蓋似狐。似鹿者。其毛色爾。似狗者。其足形也。似魚者。其
尾形也。入藥用。外腎。而曰膾者。連膾取之也。亦異物志
豹獸出朝鮮。似狸。蒼黑色。無前兩足。能捕鼠。郭璞曰。晉
時召陵扶夷縣。獲一獸。似狗豹文。有角兩脚。據此。則豹
有水陸二種。而藏器所謂似狐長尾者。其此類與。

段長乃也 卷下 八 蠅夷乃也

ウルツプ一名ラ エトロフ島より東北
 二十里あり最上常矩始めて渡り
 地圖を製せりエトロフ島クナジリ
 キイタツプ邊の夷人初復より此島
 へ渡りマラツコを獲る大サ六七尺毛
 厚く從横上下のわらわら一色紫
 黒より敷皮の絶品とす

獵虎海上に浮む時ハ腹をうへへ
 して游泳せり又島山も遊べり



東 山 中 平 島 入 東 其

イヨマンテ
 一曰イヨ是夷地の大祭事にして熊を殺
 して神を祀るなり初春より深山の雪路に入り飼馴た
 る犬は熊の糞居する所を探らしめ其子を獲てハ家
 婦をして乳を呑しめ育つ或ハ籠に入れ置魚肉をあ
 へて養ふもあり十月頃に至れば稍長して頗る巨
 大なる乃ち日をとりて酒食を設け親族朋友を饗
 す是を賓客造といふ其日熊は種々の食物をあへ皆
 言ふ神ハ今日ヲマンテなり能く食したまへて祝言
 して衆夷籠を免ぐり踊りを為す削りかけの幣を
 垣の如く並べ文席を敷き熊を出す育つたる家婦こ
 れを為すが古例なり案をよに籠といへども竈ハ斷るり

木幣を製衣する圖



イロムムヤ



段長ナカサ



十一 品文舎歳

蜂類ノヤレ 卷下

イヨマンテ



魁文舎歳

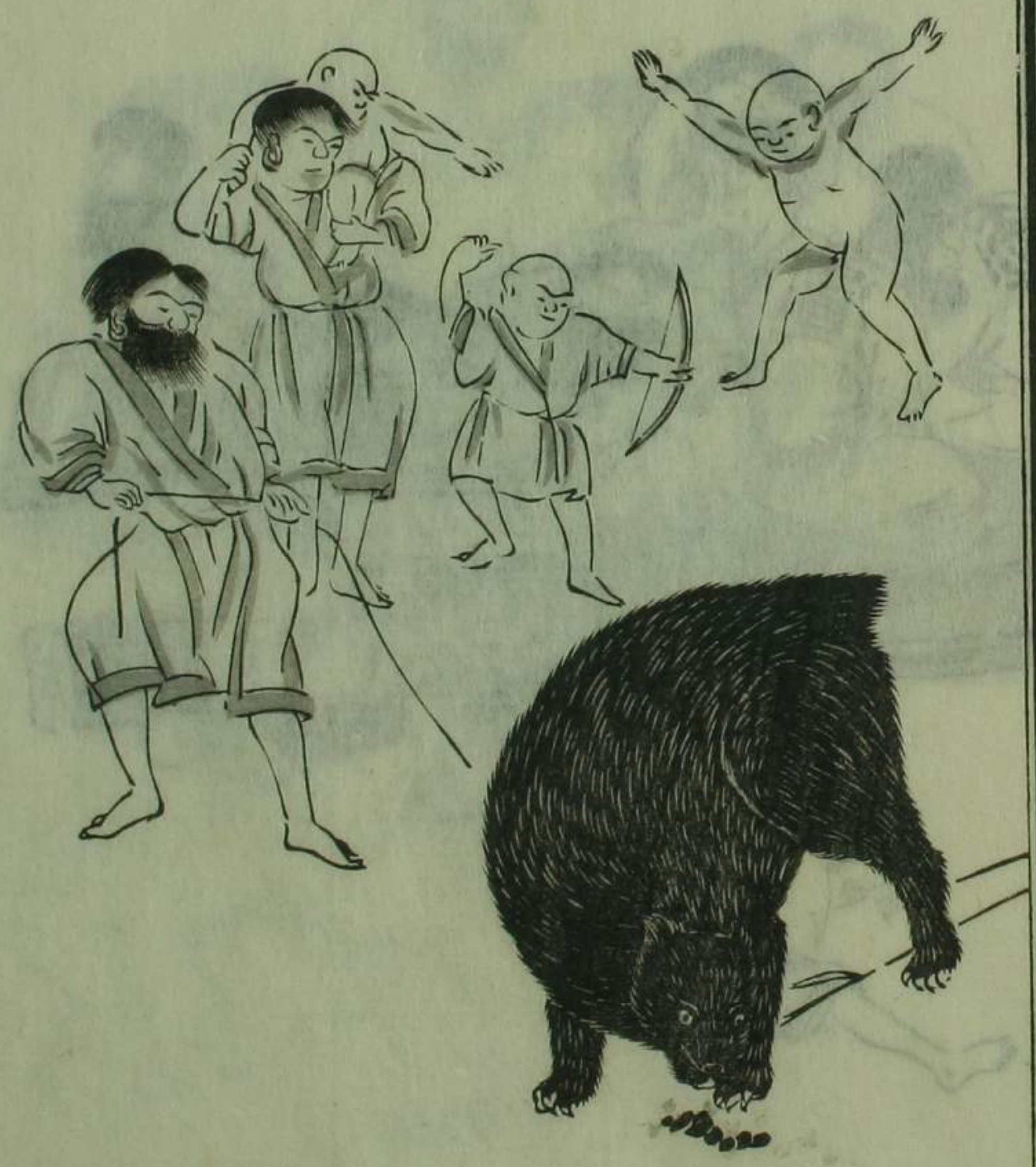
其時衆夷の中一人熊の兩耳を執て背に跨り三五
 人立より首に繩三條を結付けあなごころと心
 まよくひ遊むせ梢あつて酋長傍らに在り山
 の方は向ひ矢を一發しカモイシノヲマンテノウと
 唱ふ夫より男子ハ嬰兒に至りまて引矢をたせ先
 つ酋長或ハ酋長の長男ハ又ハ銅主の家の子より射
 初るるり但一鏃を去りて熊は中々まてなり
 長ハ八尺計りなる木三本を設け置き射事終まは熊を
 木の上より引をへ上より木より押へ胸へも横木
 をかけて壓し殺をなり白銀造りの太刀を首に當る
 事ありて刃を加へに此時處より米を蒔かける
 もあり育てたる婦人悲泣尤も甚だ

其二

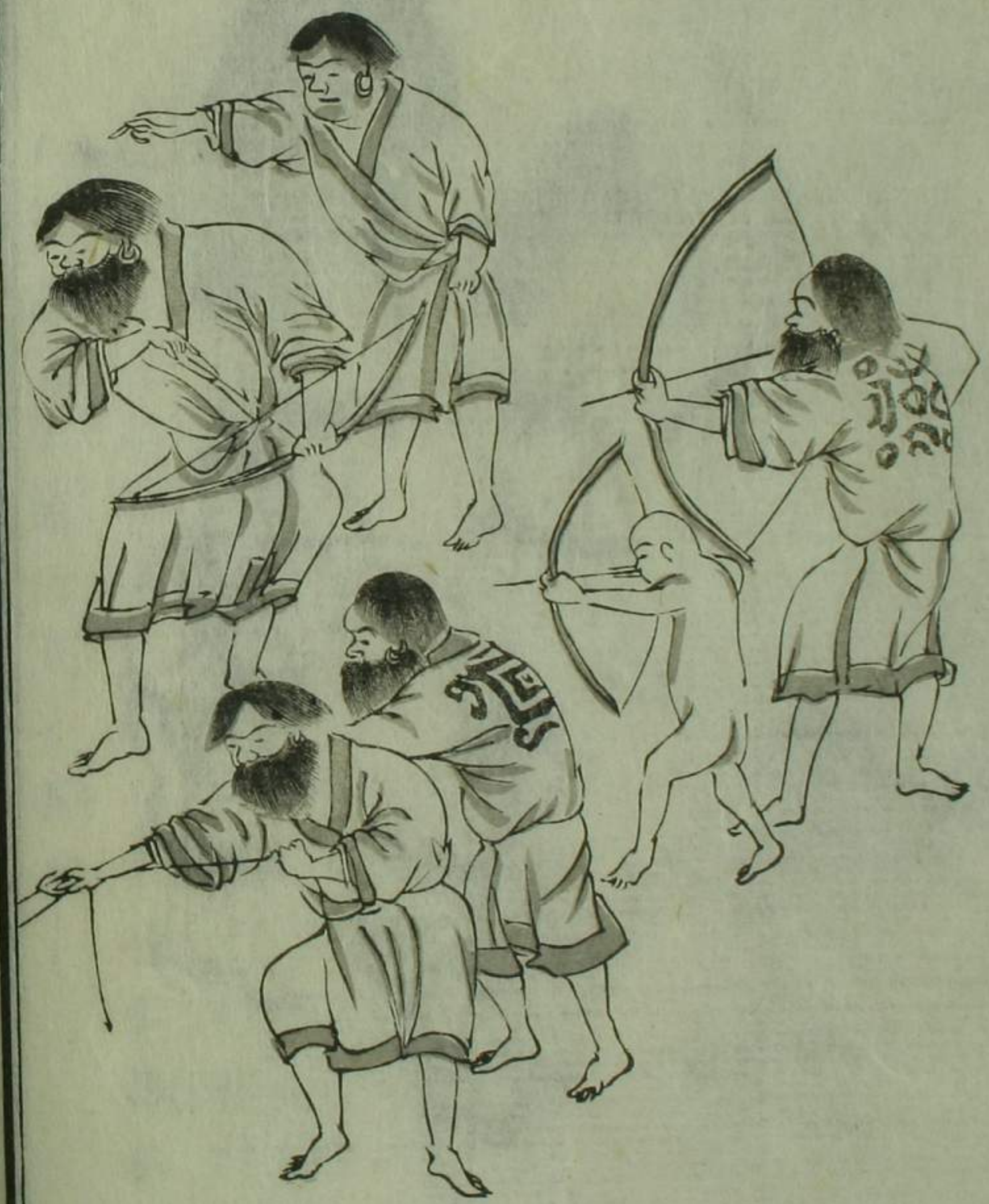


其三

其四
十三



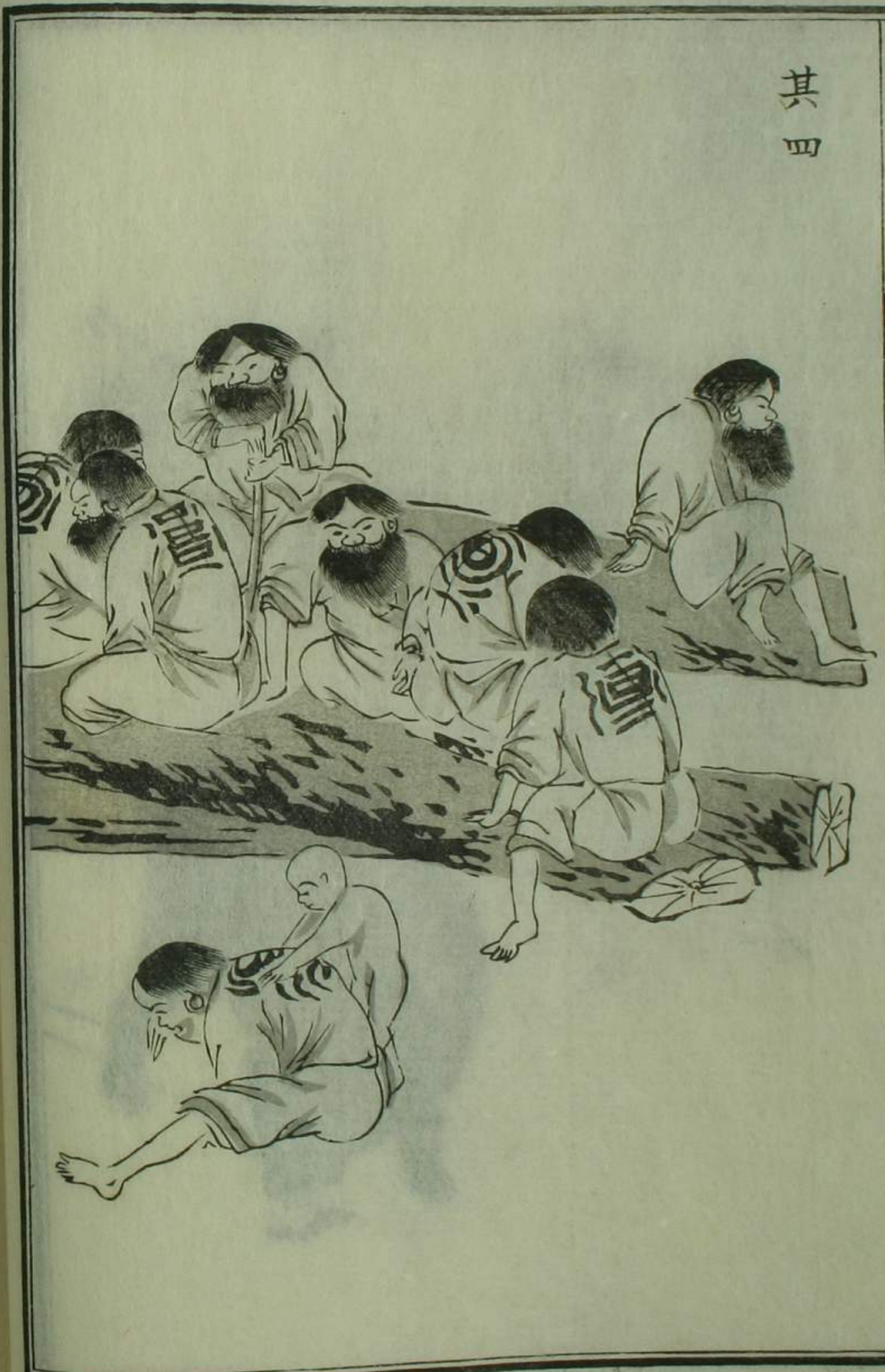
其三



蛭夷みや
卷下
魁
龍
滿



其四



さつ殺しし熊を席の中央に置き、
 飾りたる又しヤサンカタ
 幣をかざる太刀短刀時繪したる種々の
 器を陳らね衆夷ハ服を改ため耳環を
 かけ太刀を帯び酒食を供へ
 嚴重に禮拜し祝して曰く
 酋長我神 至今為神 今日送兄
 再神而來明年 我自執之 今兄敢辭
 集まる所の男女それよ言ふ事ありて神の出立
 を祝し太刀を帯ひ耳環を
 かけいさほきさま一
 神酒を吞くとむ
 案とるに祝語の漢譯通ト難き所あり恐らくと轉
 寫の誤謬あるべし或は原著人の粗漏なるもや

熊祭



夏長...
十六
出...
合...
歳...



其二



蛭身...
卷...
下...
...



其三



此時ハ支配人番人を賓客として子供從僕の末まで
 も飽まで酒を飲しめ三五日の間ハ躍りさま〜な
 る事して樂しましむ祭りの翌日ハ熊の皮を剥ぎ肉
 を羹よして食ふ頭も木幣を付了又シヤは祀り置く
 なり
 又處よ由りてハ熊を殺し直ちハ皮を剥き頭を解て
 三尺許りなる木を立て彼の皮を着せ全體を作り衣
 服太刀を帶させて酒食を供どもあり又家の中ハ
 祀りもあり
 蝦夷島の熊ハ數種あり熊と云ひ羆と云ひアルキツ
 フと云ふアルキツフハ羆の長大なるものよ稀ハ

深山より出る大丈に至る者あり人を襲せし甚と害
 を為さばアルキツフハ夷言ハ來る器といふ事なり
 蝦夷人と雖ども其肉を食せし是熊中の酋なる者
 り土俗云ふ大木の精化してなる者故に芥よ了伐
 殺して山よ捨て置ば又化して木と成るといふ
 本草集解時珍曰。按白澤圖云。木之精名曰彭侯。狀如黑狗。
 無尾。可烹食。千歲之木。有精。曰賈胛。狀如豚。食之。味如
 狗。相似た事ハ録す。エトロフ島ハ出つ
 同書時珍曰。熊羆三種。一類也。如豕色黑者熊也。大
 而色黃白者羆也。小而色黃赤者羆也。建平人呼羆為
 赤熊。陸機謂羆為黃熊。是矣。羆頭長脚高。猛憨多力。能
 拔樹木。虎亦畏之。遇人則人立而攫之。故俗呼為人熊。

蝦夷地
卷下
十九
島文合載

關西呼_レ猿熊。羅願爾雅翼云。熊有_二豬熊_一形如_レ豕有_二馬熊_一。形如_レ馬即_レ羆也。或云羆即_レ熊之雄者。

按す。本草引_レところの諸書。脛肭獸を説く者大同に_レて小異真物を見_レて傳聞由_レて書_レ。故_レ正_レか_レさ_レる説多_レ。然れども土地の異なるに從_レつて自_レから小異有_レるべし。由_レて本邦北海道_ニ産_スる所の脛肭獸及_レい海驢獵虎等を真寫_レて附録_スと_レし。

○蝦夷地_ニ産_スる熊ハ羆と二種のみ懸_レる者も無_レし木精の化_スる等の説ハ信_スるに足_レるものも一本草彭侯の條_ニ相似_スたる説あれば著者引_レて以_テてこ_ノ色を附_ス贅言_ス似_タり。

○附録

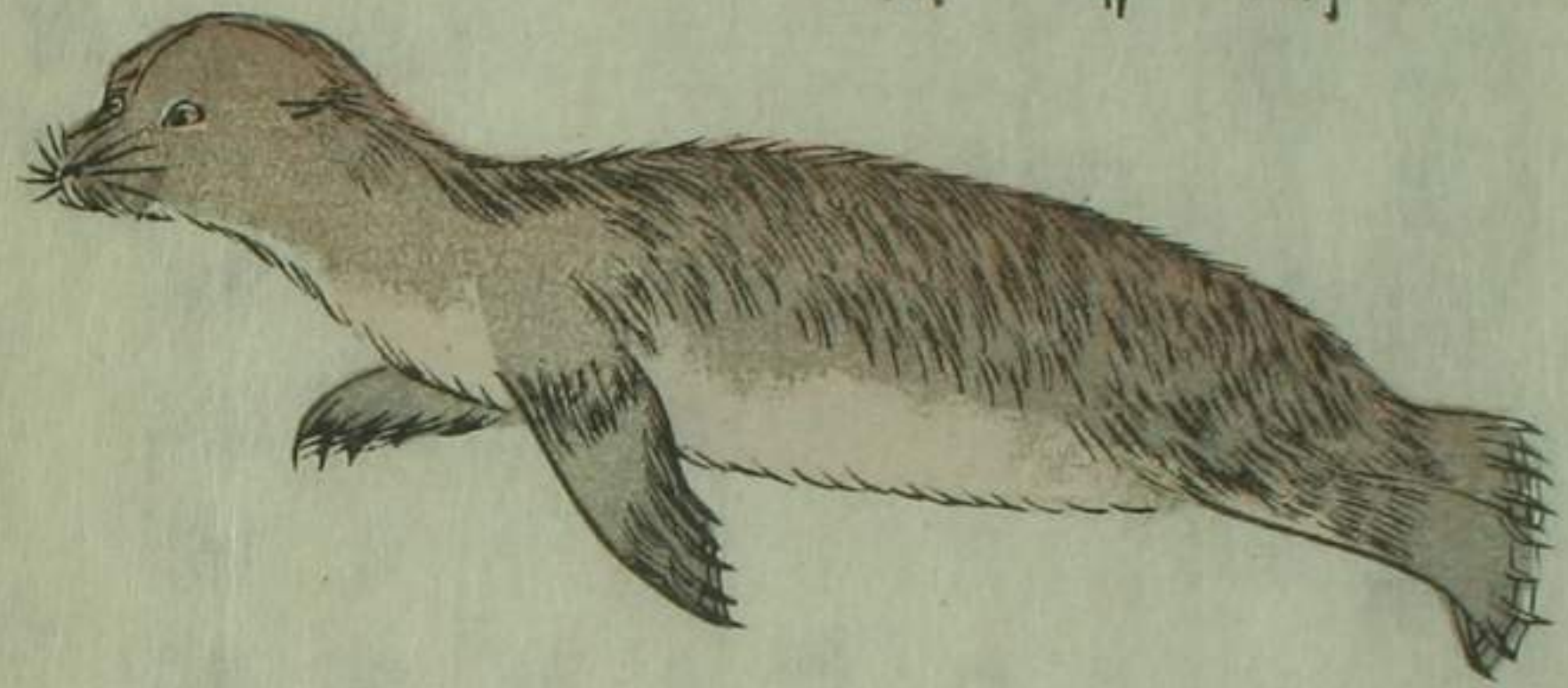
北海産の動物幾_ニ百種_一なるを知ら_レず其中鮭鱒鯨大口魚の類ハ所_ニ由_レて大同小異あ_レども大約四方の運輸_レて衆_ノ知る所_ニ在_ル色_ニ於_テ茲_ニ載_セば内國諸海_ニ稀_ニ獵獲_スる事_ニあ_レども山村僻邑海邊_ニ遠_クき地_ニ了_レは見_ル事_ニ稀_ニなる者_ニあ_レども奇狀_ニ異_ニなる者_ニを擇_ンで十_ノ一二を模寫_シ童蒙_ノ覽_ニ供_セんとす恨_レむらくは筆者_ノ拙_ニなるのみならず墨摺淡粉_ニ真_ニ相_レ逼_ルこと能_レそ_レ覽客_ニ其拙_キを笑_フことふら_レと云_レ爾

編者誌

段長
卷下
十九
島文合載

海鰻 ねつこせいの
脇肋臍

三四尺より
五七尺
色淡黒
まじり毛
短し



海驢 くらげ

七八尺
色淡赭
まじり毛短し



らつこ
臘虎

二三尺より
四五尺
色赭黒
まじり毛
長し



あきいし
海豹

六足の
あきいし
三四尺
色淡黒
まじり斑
紋あり



植魚
翻車魚 まんぢり

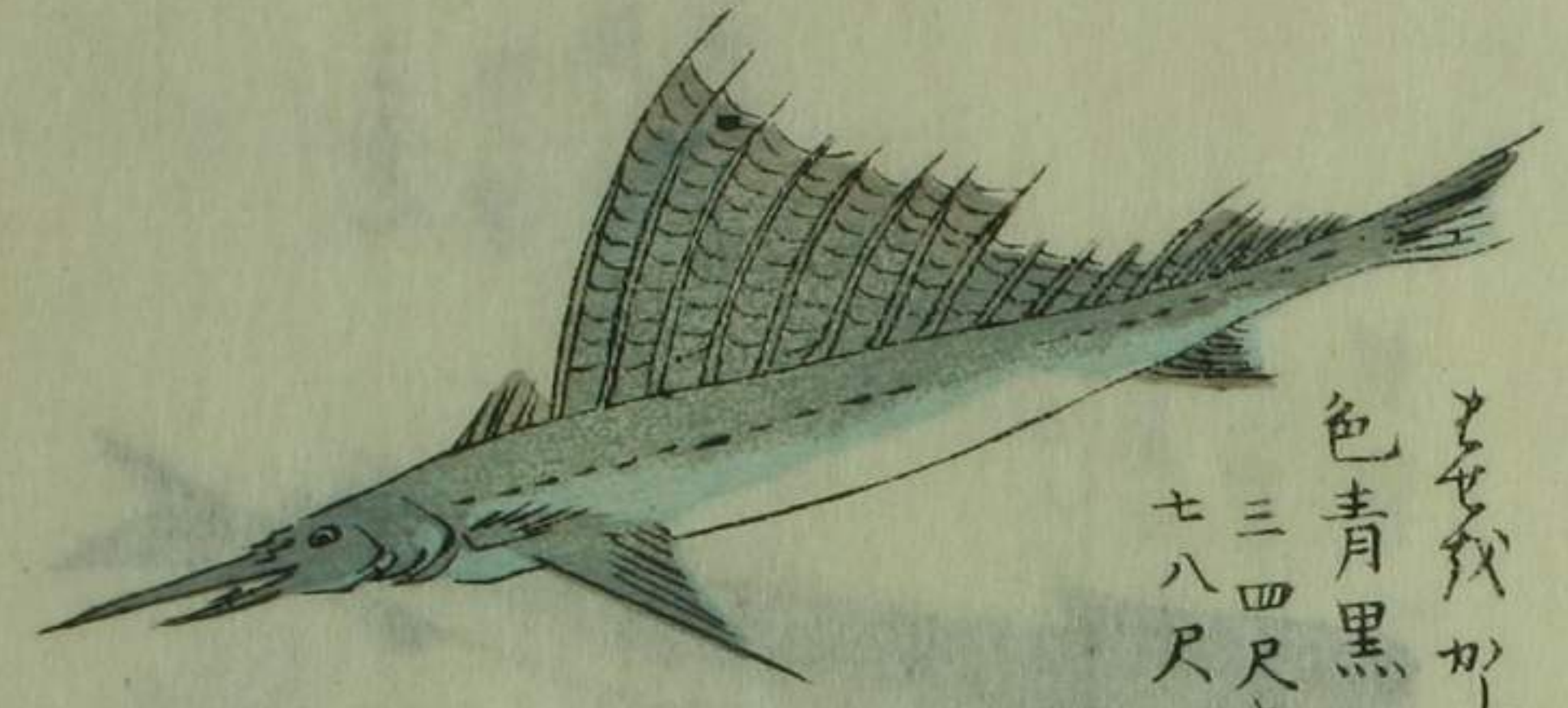
三四尺
より五六
尺
色淡黒
青を帯
鱗あり



海馬
八九尺より
一丈餘
色淡赭
毛短



とせいかどき
色青黒
三四尺より
七八尺



ヤブ
色淡青
長二三尺より
五六尺



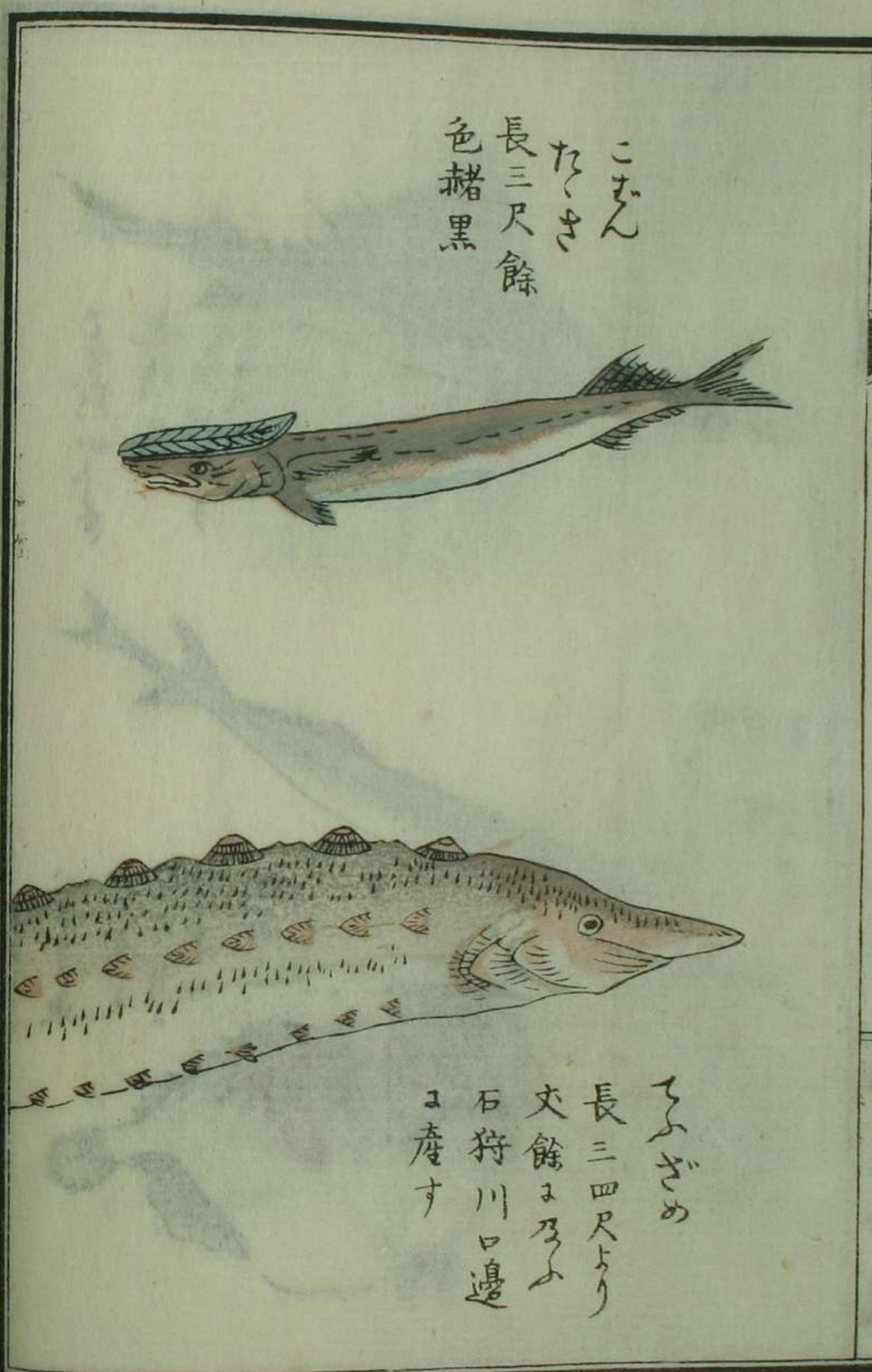
いざり魚
淡青より
黒の背
斑あり





雙髻沙魚
 志由もくさめ
 長二尺より
 七八尺

こまん
 たき
 長三尺餘
 色赭黒



ふざめ
 長三四尺より
 丈餘より
 石狩川口邊
 ニ産す

魚文書載

魚文書載

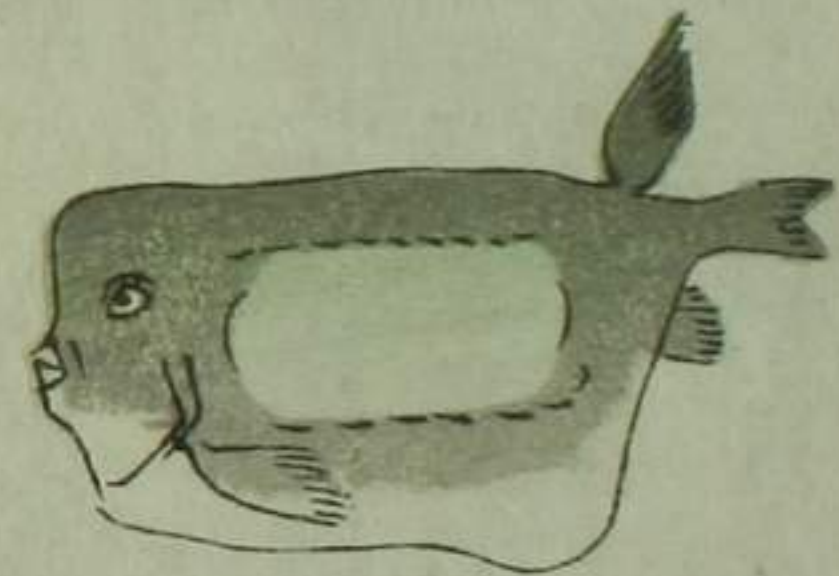
魚形 胡椒の如
きりり



鯨 五六尺より
丈餘より
甲黒
腹白



さめぞん
三尺餘
色淡黒
蛤類を食ふ
口中齒身數十
枚重なり生け



きりぎ



きりぎ

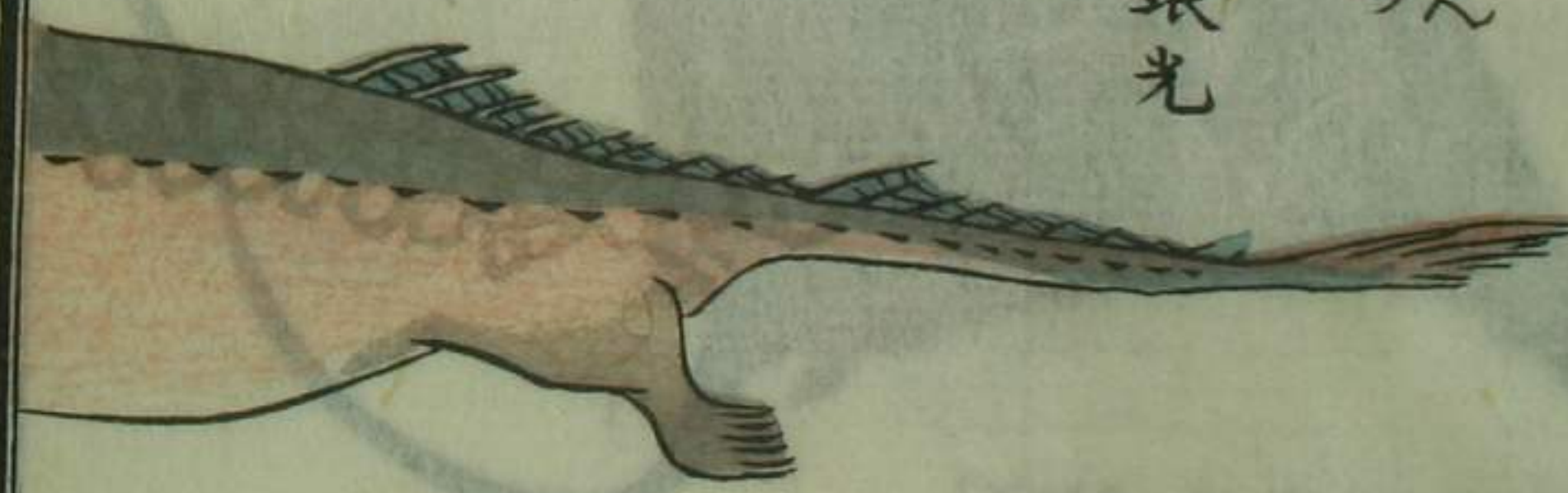


うしぎ

かさゑび
色青黒六足ニ手

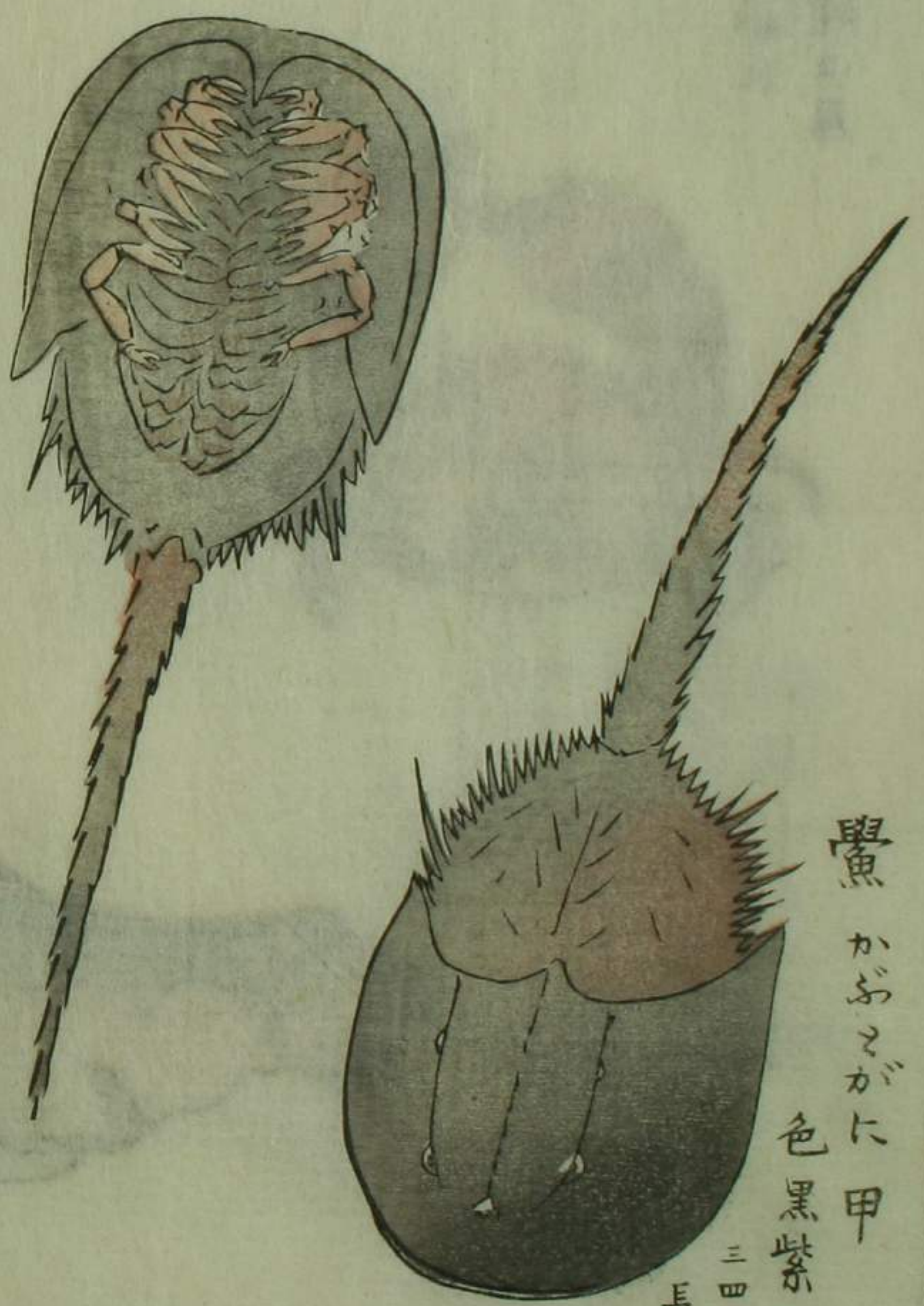


銀鮫
四五尺
色黒赭銀光
あり



おくまかに
根室邊ニ居



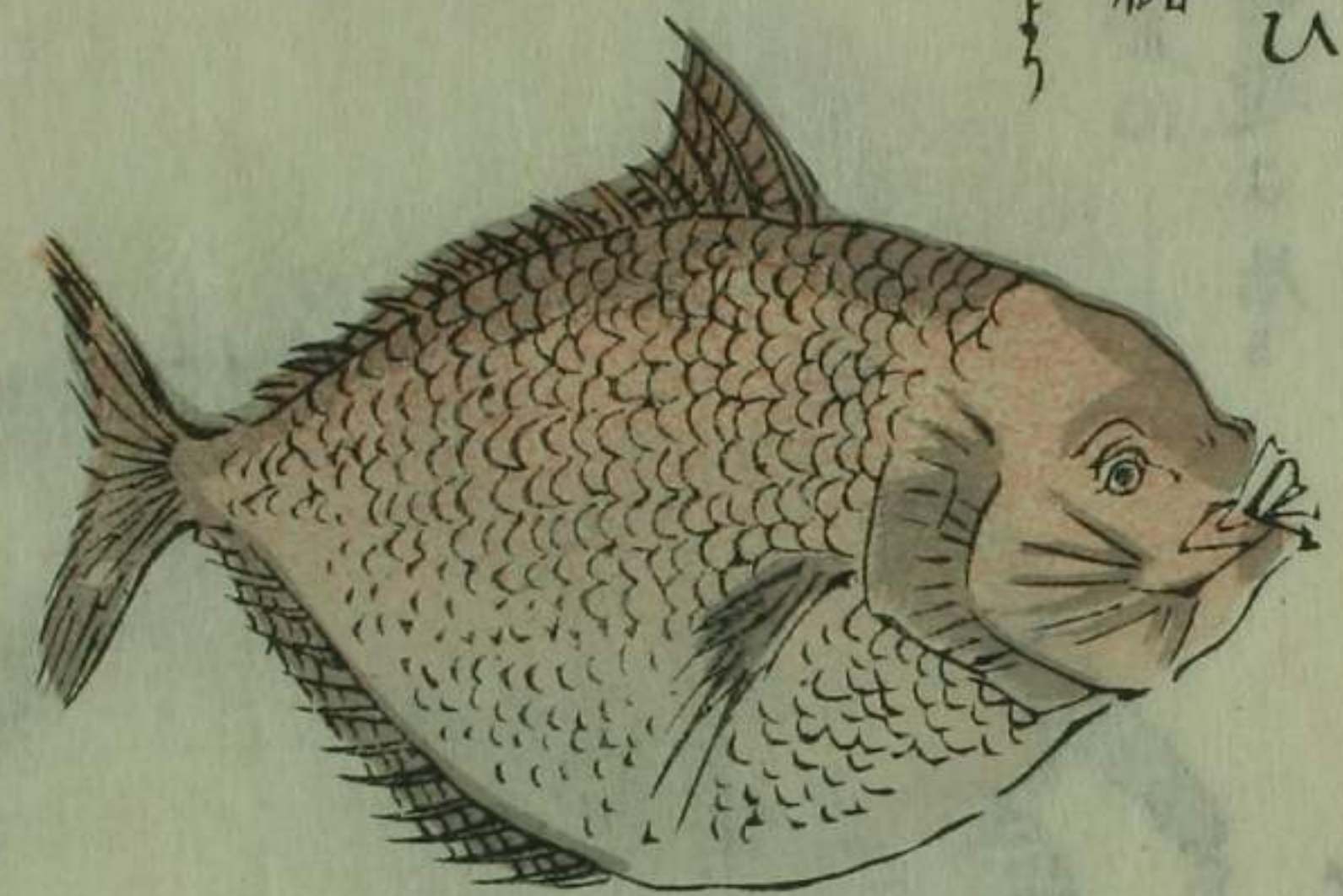


かぶまがに 腹^{はら}に 螯^{てっさ}十二あり

蟹 かぶまがに 甲

色黒紫 二尺より 三四尺尾の 長同し

ほんだい
色淡赭
一ニ尺より
四五尺



青黒色
能登海岸に
多くあり

二三寸
白色

志ほかに
小樽邊に居る



そりがに

ふくりかんきり 又きりかに
脳は真珠あり



忍んこりがに



えいざに甲

同腹





虎魚 志やち不こ
長二尺餘色淡白
小身ものハ七八寸

余嘗見山海經所載動物異形殊軀使人不堪怪訝以為是漢人捏造任筆臆誑後生而已地球雖大安有若此者哉頃遊于北海觀水產博覽場有異形殊軀不可名字者夫北海距內地僅一帶水而產異物不可數盡也。想天下之大五洲之廣窮夜國冰界之地其所產果如何也。漢人虛妄雖不中亦不遠也。嗚呼造物者作為此怪々奇々無數動物使生活水陸抑亦有何功益。然自彼怪奇者見弗怪奇者反可為怪奇不知怪者弗怪也。歟。弗奇者奇也。歟。余欲問之造物者造物者恐言如子者則怪奇中怪奇者矣。

芝山外史識于函館客窗下

9.000

全 明治三十三年三月二日 印刷
年三月八日 發行

不許
複製

校閱者

石川 鴻齋

東京芝區片門前町三丁目十四番地

發行者

八木 勘五郎

函館末廣町五番地

印刷者

松 邑 孫 吉

東京京橋區弓町十二番地

發兌元 函館末廣町

魁 文 舍

郵便
券
不

郵便
券
不

